

この資料に E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) を取り替える方法を記述されていません。

スタンドアロン RMA E メール セキュリティ アプライアンスの設定方法か。

前提条件

- 古いアプライアンスおよび新しいアプライアンスは同じ正確な AsyncOS バージョンおよびビルドがなければなりません。
- これはスタンドアロン アプライアンスにだけ、クラスタにある 1 適用しません。
- この資料はすべてのステップのための Web インターフェイス (GUI) の使用を仮定します。
- クラスタのアプライアンスを取り替えるために、技術情報を参照して下さい: [クラスタにある ESA を取り替えて下さい](#)

解決策

1. 古いアプライアンスからローカルマシンに設定を保存して下さい。 GUI から->システム管理->コンフィギュレーション ファイル->ローカル コンピュータへのダウンロード ファイル。 ボックス「コンフィギュレーション ファイルのマスク パスワード」のチェックを外すことを忘れないでいて下さい。
2. 新しいアプライアンスをネットワークで作動中に得て下さい。 イーサネットによるアクセスに関しては、管理ネットワーク ポートに接続して下さい。 デフォルト IP アドレス 192.168.42.42 (ユーザ名の Web ベースのインターフェイスにアクセスするのにブラウザを使用して下さい: admin、パスワード: ironport)。 また SSH によってコマンドライン インターフェイスか同じ IP アドレスのターミナル エミュレーションソフトウェアにアクセスできます。(ネットマスクは /24 です)。 逐次アクセスに関しては、シリアルポートに接続して下さい。 9600 ビットを使用してターミナル エミュレータによってコマンドライン インターフェイスに、8 ビット、no parity、1 つのストップ・ビット (9600、8、N、1)、フロー制御 = ハードウェア アクセスして下さい。 システム セットアップ ウィザード (SSW) を実行して下さい。 古いアプライアンスがデッドまたは既にネットワークから離れている場合、同じ IP 情報を使用できます。 古いアプライアンスがネットワークにそれでもある場合、新しいアプライアンスに一時的 IP アドレスを与えて下さい。
3. 新しいアプライアンスが AsyncOS の同じバージョンおよびビルドにあることをチェックして下さい。 GUI から->モニター->システム状態。 それらが同じである場合、ステップ 5. に進んで下さい。 それらが同じではない場合、ステップ 4. に進んで下さい。
4. アプライアンスが同じビルドにない場合、古いもののバージョンを一致するために新しいアプライアンスをアップグレードして下さい。 GUI から->システム管理->システム アップグレード->利用可能なアップグレード。 リストでそれを見る場合、それを選択して下さい。 それがない場合、特定のバージョンは Cisco サポートによって提供される必要がある場合もあります。 続行する前に連絡して下さい。

古いアプライアンスが置換 アプライアンスより古いバージョンにあれば注、(もし可

能なら) 新しいアプライアンスを一致するためにそれをアップグレードする必要があります。

5. アプライアンスが同じバージョンであるために確認されたら新しいアプライアンスにコンフィギュレーション ファイルをロードして下さい。 GUI から-> システム 管理-> コンフィギュレーション ファイル-> ロード ローカル コンピュータからのコンフィギュレーション ファイル。
6. コンフィギュレーション ファイルがエラーなしでロードする場合、古いアプライアンスを解放し、望まれるように新しいアプライアンスの IP 設定を編集することを続行できます。 GUI から-> ネットワーク-> IP インターフェイス。 またルーティング情報を同様に編集する必要がある場合もあります (ネットワーク-> ルーティング)。
7. 新しいコンフィギュレーション ファイルをロードするときエラーを得る場合、試み、XMLエディタのコンフィギュレーション ファイルを編集し、エラーが示すセクションを探することができます。 ただしこれと快適でなかったら、サポートに連絡して下さい。